

ICTを活用した安全技術「ICT安全」の事例

1枚に1技術を目安に記載願います

JCMA機電i-Con現場WG

発行No
A-31

■ 技術名称	
都市河川監視システム Teshub X	
■ 基本情報	
発注者	
会社名	
工種（大項目）	ダム / トンネル / シールド / 造成 / 舗装 / 橋梁 / 構築物 / その他（ 河川工事 ）
工種（小項目）	
仕様	発注者指定 / 受注者独自
採用事由	①ICT対象工事 ②技術提案 ③自主導入 ④創意工夫 ⑤その他（ ）
採用目的	災害防止 / 危険有害要因の低減 / メンタルヘルス・作業環境の改善 / その他（ ）
■ 実施内容詳細（危険事例や想定だけの場合は本欄の記入は不用。）	
対象数量	
活用ICT	無人化・省人化 / 人・行動センシング / 機械センシング / その他能力支援（ オープンデータ活用 ）
システム業者	自社
導入効果・検証（1）	河川内作業中に発生したゲリラ豪雨に対して、Teshub Xからのアラートメールにより、 1時間以上の余裕を持って作業員の退避や重機の移動ができた。
導入効果・検証（2）	従来の洪水監視システムで必要となる現場周辺で気象/河川水位観測機器を設置する必要が無くなるため、 観測機器の設置/撤去やメンテナンスの費用が削減できた。
導入効果・検証（3）	豪雨時に、現場で雨雲レーダーを昼夜監視する体制が緩和され、 業務の効率化に繋がった。

作成者氏名	
連絡先(アドレス)	
■ 参考図・写真	
<p>写真 当該河川の増水状況</p> <p>Teshub Xのシステム図</p>	
■ 欲しい安全機能、改善したい機能	
<p>ゲリラ豪雨の要因となる積乱雲が発生する前に、ゲリラ豪雨の予兆を検知できる機能を組み合わせたシステムが欲しい。</p>	
■ 課題・要望事項	
<p>本システムを活用できる現場に限られるため、ランニング費用にスケールメリットが得られず、比較的高くなる。</p>	